

菟田野小だより「桜梅桃李」

No.24

令和5年 1月25日(水)

(<http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/>)

今年もよろしくお祈りします

2023年はコロナ第8波のまっただ中でスタートしました。今冬はインフルエンザも流行するという予報もあり、感染症とのたたかいはまだまだ続くと気を引き締めています。手洗い・消毒・マスクなど対策をとりながら教育活動を進めていきます。今年もご協力のほど、よろしくお祈りします。

雅楽の調べ in 菟田野

雅楽は日本古典芸能の一つで、大陸から伝わった舞や音楽が日本風になり、平安時代に形作られたと言われています。

菟田野小学校では、児童支援に来ている橋本先生の協力を得て、20日(金)に6年生が雅楽の体験学習をしました。龍笛や



鳳笙など5種の楽器の紹介と実演、子どもたちが実際に音出しをする体験をしました。楽器の数の都合上、全員が体験できませんでしたが、1回のチャレンジで音を出せた児童もいて、大いに盛り上がりました。また、「越天楽」の映像に合わせて雅楽独特のリズムも体感しました。最後に橋本先生の独奏に合わせて「君が代」を歌いました。



1400年の伝統を持つ雅楽が音楽室でよみがえり、子どもたちはとても貴重な学

習をしたと思います。音楽的要素だけでなく、伝統を大切に作る心、伝統を受け継ぐ重要性も学べたと思います。

この授業の様子は、後日宇陀chanで放送される予定です。

折にふれ思うこと(幸福のカタチ)

ある女性は息子が幼かった頃に絵本の読み聞かせをしていて、ふと思ったそうです。“わが子はまだ言葉を覚えていないのに、どうして私が読む話の内容に、笑ったり驚いたりできるのだろう”と。

彼女は考えた末に気づきます。息子は絵本を見つつ時折、顔を上げ、母である私を見つめながら聞いていました。きっと、私の表情や声から何かを感じ取っているに違いない、と。同じ言葉でも、話し方や声の調子で伝わり方は異なる。発する側の思いいかなのだ、と思いました。

その息子が大学生となった年、彼女は大病を患います。彼女は病床で決意しました。“幼い頃、息子に読み聞かせを通して、「優しい心」や「正しい生き方」を伝えてきた。今回は試練と闘う姿を通して、「絶対勝利」を伝えていこう”と。

彼女が毅然と病魔に立ち向かうほどに、支える家族との団結はいつそう強くなっていきました。安心感がにじみ出る彼女の笑顔は、“必ず病魔を克服できる!”という確信を、家族に届けます。やがて病を克服し、彼女は今も家族とともに元気に幸せの最前線を走っています。

ある先人の言葉に「笑顔は、幸福の結果というよりも、むしろ幸福の原因だといえよう」とあります。そんな笑顔が広がれば、世界はもっと明るくなるに違いないと思います。



● 休み時間の校庭

なわとびがブーム。どの学年もカードを持って跳んでいます。

